

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：25407

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K17340

研究課題名(和文) 乳児の感情表出に対する感情反応と感情状態への認知的解釈の個人差要因

研究課題名(英文) The psychological factors in emotional responses and cognitive interpretations for infants' emotional expressions

研究代表者

山口 正寛 (Yamaguchi, Masahiro)

福山市立大学・教育学部・准教授

研究者番号：90583443

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、乳児が泣いている映像を作成し、女子大学生と乳児を持つ子どもの母親を対象に、この動画を視聴することで生じる感情喚起に対するアタッチメント、共感性、養育経験の影響を実験的手法を用いて検討した。本研究の結果から、アタッチメントや共感性、養育経験は視聴者の情動喚起や泣いている人物への情動評価には影響を与えていないことが明らかとなった。この結果を踏まえ、情動価を統制した乳児の泣いている動画を新たに作成するとともに、アタッチメント関連変数と動画視聴時の生理・行動指標との関連を明らかにする研究を引き続き進めている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の結果から、乳児の泣きに対して、アタッチメントや共感性、養育経験は感情反応や泣いている人物への感情評価には影響を与えていないことが示唆された。この結果を一般化するためにはさらなる調査が必要となるものの、乳児の泣きに対する心理的反応・評価は常識的に想定されるプロセスとは異なるメカニズムであることを示唆したという点で学術的な意義があると言える。また、本研究の結果から、乳児の泣きに対する心理的反応と子どもとの関わり方や現実での行動との関連を検討していく必要性を提案した。本研究の成果は児童虐待や親子関係に関する研究への展開に向けた基礎的資料になるという点で社会的意義があるといえる。

研究成果の概要(英文)：In this study, we created video clips of an infant crying. We examined the effects of attachment, empathy, and parenting experience on the emotional arousal that occurred by watching infant crying video clips using experimental methods. Female university students and mothers of infants participated in this study. This study's results show that attachment, empathy, and parenting experiences as parents did not affect participants' emotional arousal or emotional evaluation toward the crying person. Based on these results, we created new video clips of crying infants with controlled for emotional valence. Now we are continuing research to clarify the relationship between attachment-related psycho-social variables and physiological and behavioral indicators during infant crying video clips viewing.

研究分野：臨床心理学

キーワード：情動 アタッチメント 泣き

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

厚生労働省の調査によると、我が国の児童虐待の相談件数は平成 25 年度の速報値では 73,765 件であり過去最多の記録が報告されている。過去 10 年間で相談件数は 2.5 倍以上に増加し、我が国の児童虐待は増加の一途を辿り今日の大きな社会問題となっている。虐待は様々な要因の相互作用によって生じるとされるが、その要因の一つに乳児の泣き声が挙げられる。乳児の泣き声が虐待の要因となる理由に、泣き声が聞き手にネガティブ感情を喚起させる (Lummaa, Vuorisalo, Barr, & Lehtonen, 1998) ことが挙げられる。このネガティブ感情の喚起には個人差があり、子どもの泣きの頻度、なだめられやすさ、身体疾患の有無などが想定されている。これらの報告から、乳児の心身の特異的な特徴が、養育者にネガティブな感情反応を生じさせる要因となりうるということが考えられる。一方、養育者側の要因に焦点を当てた報告もあり、虐待リスクの高い者はリスクの低い者よりも泣き声に対してネガティブ感情が強く生じたり、生理的覚醒が高まるという。また、アタッチメント理論では、養育者自身の被養育体験と乳児に対する感情反応の関与を仮定している。Fraiberg, Adelson, & Shapiro (1975) は臨床上の観察から、養育者が自身の被養育体験を不安定な親子関係として捉え、成長後も親子関係に関する未解決の葛藤を抱えている場合、乳児との相互作用場面において、乳児が発する泣きや後追いなどによってネガティブな感情が生じることがあることを報告している。こうした感情反応が生じる理由の一つに、内的作業モデル (Internal Working Models; IWM) の関与が想定されている。IWM とは、幼少期の親子間相互作用から形成される自他の表象であり、アタッチメントの文脈において認知・感情・行動のパターンを方向づけているとされる。

以上のように、乳児が示す感情に対する感情反応の個人差に関する研究は多方面から行われており、健全な親子関係形成のメカニズムを明らかにする上で、この問題を検証することは学術的に重要であろう。また、乳児の感情に対する養育者の感情反応と心理的要因との関連性を明らかにすることは、虐待予防や早期介入のための手立てを開発していく上で有益な示唆を得られるものと考えられる。

2. 研究の目的

従来の研究からは、乳児が示す感情と他の様々な刺激との相違や、養育経験の有無と子育て上のストレスの影響、IWM 以外の心理的変数との関連については検討されていない。そこで本研究では、乳児の感情に対する感情反応の個人差要因に関する基礎的研究を発展させ、虐待予防や健全な親子関係形成への介入のための臨床的応用に展開するための示唆を得ることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、まず予備調査として、大学生を対象に乳児音声聴取に伴う感情反応とアタッチメントとの関連 (研究 1) を実施した。その後、研究 1 の結果を踏まえ、大学生と乳児を持つ母親を対象に、乳児の泣きの映像視聴に伴う感情反応及び映像に対する感情評価と養育経験、アタッチメント、共感性の関連を検討した (研究 2)。

(1) 研究 1: 乳児音声聴取に伴う感情反応とアタッチメントとの関連

まず、予備的調査として、乳児音声聴取による感情反応と個人のアタッチメントとの関連を検討した。118 名の大学生を対象にアタッチメントに関する質問紙を実施した。その後、乳児音声 (泣き声、笑い声、喃語) を聴取させ、その前後の感情反応を質問紙によって測定した。

(2) 研究 2: 乳児の泣きの映像視聴による情動喚起と情動評価

3 歳以下の子供と同居している母親 8 名と女性大学生 8 名を対象に、乳児と成人の泣きの映像視聴によって生じる情動喚起を Affect Grid によって測定し、泣いている人物に対する情動評価を the Self-Assessment Manikin (SAM) によって測定した。そして、それらの個人差に關与する心理的変数としてアタッチメントと共感性を想定し、Affect Grid と SAM との関連を検討した。

4. 研究成果

(1) 研究 1 の成果

研究 1 で得られたデータについて、相関分析と階層的重回帰分析を行った。その結果、アタッチメント回避は、乳児音声聴取後の感情反応と関連しておらず、アタッチメント不安の高さは泣き声聴取後の肯定的感情の低下、笑い声聴取後の安静状態及び否定的感情の増加、喃語聴取後の安静状態の増加と肯定的感情の低下と関連していた。これらの結果から、アタッチメント回避はアタッチメント刺激による自覚的な感情体験や感情表出の抑制に關与し、アタッチメント不安は肯定的感情を引き起こしうる刺激を受けた場合でも、応答的な相互作用を効果的に生み出すこと妨げてしまう可能性を示唆しており、乳児が発するアタッチメント・シグナルの適切な知覚を妨げている可能性が考察された。しかしながら、全体の平均としても、泣き声聴取後には肯定的感情が低下し、笑い声聴取後は否定的感情が高まり、喃語聴取後には肯定的感情が低下していた。このことから、実験方法の修正や実験参加者の属性を再検討する必要があると考えられた。

(2) 研究 2 の成果

研究 2 で得られたデータを分析した結果、アタッチメントと共感性の個人差は情動喚起と泣いている人物への情動評価に影響を与えていなかった。また、乳児の泣きの映像を視聴することで生じる情動喚起と泣いている人物への情動評価に対する養育経験の影響は認められなかった。この結果には、実験で使用した映像の性質による影響が含まれていると考えられた。本研究で使用した乳児及び成人の泣きの映像に対する SAM の分布を見ると、いずれも得点のばらつきが少なく、刺激に対する評価の個人差を検出することが困難であった。すなわち、刺激が与える印象が明示的であったため、多くの人が類似した評価を行う傾向となったと考えられた。

(3) まとめ

本研究の結果から、乳児の泣きに対して、アタッチメントや共感性、養育経験は感情反応や泣いている人物への感情評価には影響を与えていないことが示唆された。この結果が示唆するところは、乳児の泣きに対する心理的反応・評価は常識的に想定されるプロセスとは異なるメカニズムであり、アタッチメントや共感性は、明示的な刺激よりも曖昧で中性的な刺激に対して駆動しやすい心理的変数であるのかもしれない。また、泣き声による情動喚起や情動評価は自覚的な変化よりも生理・行動レベルで関与している可能性も考えられる。したがって、情動価を統制した乳児の泣いている映像の使用や、アタッチメント関連変数と動画視聴時の生理・行動指標との関連を明らかにすることが今後の課題として検討する必要があるだろう。

<引用文献>

- Lummaa, V., Vuorisalo, T., Barr, R. G., & Lehtonen, L. (1998). Why Cry? Adaptive Significance of Intensive Crying in Human Infants. *Evolution and Human Behavior*, 19, 193-202.
- Fraiberg, S., Adelson, E., & Shapiro, V. (1975). Ghosts in the nursery: A psychoanalytic approach to the problems of impaired infant-mother relationships. *Journal of the American Academy of Child Psychiatry*, 14, 387-421.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 山口正寛・吉井香菜子	4. 巻 7
2. 論文標題 泣きの映像による情動喚起と情動評価－養育経験，アタッチメント，共感性の観点から－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福山市立大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 127-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://doi.org/10.15096/fcu_education.07.10	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山口 正寛	4. 巻 5
2. 論文標題 乳児音声聴取に伴う感情反応とアタッチメントとの関連	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 福山市立大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 103-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://dx.doi.org/10.15096/fcu_education.05.10	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 山口正寛
2. 発表標題 乳児と成人の泣きに対する情動評価及び感情喚起－共感性とアタッチメントの観点から－
3. 学会等名 日本心理臨床学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masahiro YAMAGUCHI, Shin HARADA, & Takahiro YAMANE
2. 発表標題 The Relationship between Emotional Responses to Babies' Voices and Attachment
3. 学会等名 18th European Conference on Developmental Psychology（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----